

## 新国立競技場の恒久サブトラックの設置について(案)

### ○ 恒久サブトラックの整備・管理主体

新国立競技場に付属する恒久サブトラックについては、新国立競技場の整備主体である J S C が、その必要性を判断した上で、財源と建設用地を確保し整備すべきものとする

### ○ 神宮外苑地区で恒久サブトラック用地を確保する可能性

#### ① オリンピック競技施設の近傍

(新国立競技場敷地内、東京体育館敷内、都営霞ヶ丘アパート跡地内)

・8 万人規模の観客を安全に出入りさせるための人だまり空間やバリアフリー動線の確保に大きな支障が出るため困難

#### ② 明治神宮の所有地

非開示 サブ

トラック用地の確保は困難

非開示 サブトラック用地を外苑に確保することにつ

いて、非開示 は極めて困難

#### ③ 建替え後の秩父宮ラグビー場に併設

・ラグビー専用である秩父宮ラグビー場を陸上競技場と併用として建替えることについては、非開示 は極めて困難

・なお、トラックを併設することにより、観客席とフィールドの距離が現状より大きく離れることにもなり、これも非開示 ではない

## ○我が国における過去の国際大会等の実績

世界陸上：大会創設（1983）以来 **33 年間に**、日本開催は国立競技場（1991）、大阪（2007）の **2 回のみ**。

アジア大会：大会創設（1951）以来 **64 年間に**、日本開催は国立競技場（1958）、広島（1994）の **2 回のみ**。

直近 8 年間：サブトラックが必要と見込まれる国際大会は次の三大会のみ。

アジア陸上（2011、神戸）、日韓中ジュニア交流（2014、岩手、復興支援関連）、アジアマスターズ（2014、岩手、同左）

なお、国体等サブトラックを利用した国内大会は全国各地の競技場で開催可能

※ 2020 年大会に必ずしも必須でない恒久サブトラックを外苑で整備することについては、明治神宮をはじめとする再開発地区の関係地権者の今後の協議に大きな混乱を与え、大会直後からの着工に向けた地区のまちづくりに支障となる。